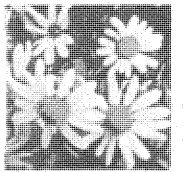


# 三宮センター街善意の会の奉仕



・三宮センター街善意の会設立の趣旨  
 会員の善意をもちより、恵まれない人達に奉仕し、明るい社会づくりに寄与することを目的としている。

・善意の会の設立 昭和四十年六月一日

・事務所 三宮町一丁目四三二月刊センター編集室内におく。

・奉仕の対象①精神薄弱児(者) 身体障害児(者)の収容施設、養護施設等へ施設が希望される設備や備品等を寄贈し、施設を訪問して慰問激励する。  
 ②善意銀行に預託する。その他。

〈三宮センター街善意の会収支表〉

期	期 間	収入金	奉仕金	経 費
1	40.6～41.5	918,474	863,395	55,079
2	41.6～42.5	852,151	780,182	71,969
3	42.6～43.5	960,523	871,449	89,074
4	43.6～44.5	1,227,838	1,151,797	76,041
5	44.6～45.5	1,085,707	998,446	87,261
6	45.6～46.5	1,258,498	1,164,863	93,635
7	46.6～47.5	1,542,986	1,449,277	93,709
8	47.6～48.5	1,475,806	1,373,111	102,695
9	48.6～49.5	1,690,813	1,586,528	104,285
10	49.6～50.5	1,585,773	1,479,018	106,755
合 計		12,598,569	11,718,066	880,503

・会費 毎月金五百円也と定める。  
 ・会員 センター街の店主とその家族及び従業員の間費納入者を正会員とし、以外の賛助協力者を特別賛助会員とする。  
 ・会費の使途 収入金額の九〇%を奉仕活動基金に当て一〇%を運営事務費とする。

但し運営費の年度末剰余金は基金に戻す  
 ・理事定数 十九名、会長は三宮センター街連合会長に、副会長は一、二丁目会長に委嘱する(この件は昭和四十四年四月、三丁目が連合会加盟にともない理事定数を二十四名に会則変更した)

センター編集室が常任理事として会則及び理事会の議決に基き会計、記録その他全般運営事務を担当する。  
 ・事業年度 一年とし毎年六月一日より始まり翌年五月三十一日終了する。活動状況は月刊センター誌上に掲載し公告する。

◆◆◆  
 善意の会が発足したきっかけは「月刊センター」が創刊十周年を迎え、祝賀会を開催するに当り、記念事業としてボランティア活動を継続して行いたい旨を、当時センター誌の顧問格として指導頂いた行政氏に本地がご相談申し上げたところ、時あたかも社会福祉への目が向き始め、マスコミも善意番組が組まれる風潮にあった時代だったので、行政氏も賛同して下さり、早速長沢連合会長にも相談協議して、善意の会と名付けることになった。

◆◆◆

▼坂井知事・和子夫人もチャリティセールにお出で下さる。夫人はこの日浴衣をお買上げ。



◀第1回老人展へ寄付金。  
 現金の後援をするようになったのは善意の人選ばれて3万円を贈られ、その金を寄付してから恒例となった。(S42.9.6)



▶神愛子供ホームへステレオを奉仕。(フローレンス・バイヤス園長さん、S.48.8.16第99回)



# 三宮センター街善意の会

## 三宮センター街善意の会奉仕

50. 6. 9	県善意銀行	372,590	51. 11. 30	市福祉協会	300,000
9. 30	市老人展	50,000	52. 3. 28	家庭養護促進協会	100,000
11. 4	尼子病院	50,000	6. 11	県献金	315,690
12. 1	歳末愛の鍋 (県)	100,000	9. 20	市老人展	70,000
16	生田区福祉協議会	100,000	11. 30	歳末愛の鍋 (県)	100,000
51. 3. 5	神戸学園	300,000	12. 23	誕生日ありがとう運動本部	50,000
6. 1	県善意銀行	130,000	53. 1. 17	市消防育英会	100,000
6. 3	県献金	326,579	20	神戸市さどんか療護園	100,000
9. 17	市老人展	70,000	2. 28	県肢体不自由児協会	200,000
10. 30	県水害義捐金	500,000	3. 24	信愛学園	200,000
11. 30	歳末愛の鍋 (県)	100,000	28	生田区福祉協議会	100,000

会員数は第一回一三六〇(会員二二八、従

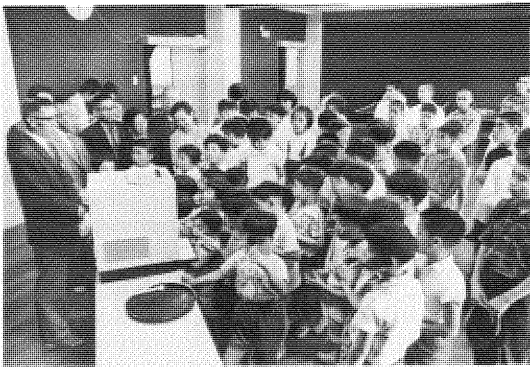
決して負担を感じさせてはならない。しかしコーヒー二杯を始末してもらえば会費がもらえるとして、昭和四十年五月七日、そごうに於けるセンターの記念式典の席上で提案したところ、来賓始め満場拍手の賛意を受けて決定、六月一日が兵庫県善意の日に当たるのでこの趣旨にこたえて「三宮センター街善意の会」を発足させた。



▲善意の会育ての親、行政猛男氏

会費五百円というのも行政の提案で、人に善意をほどこすのに、

### ▼第一回奉仕は子供の家へ



### ▼おかば学園に喚声が上がった (S40.7.5第2回)



業員三、賛助会員五)で、会費の徴収は町会事務員が担当された。集金手数料三%。  
 ・善意の会第一回の奉仕は六月二十二日、当時助役であった宮崎氏と相談して須磨離宮にある市立子供の家(八十名収容)へ「夏に冷たい水を飲ましてやりたいから」との要望で「ウォータークーラー」一台、星電社の特別割引料金で四三、二〇〇円で奉仕、当時としてはぜひいたく備品のように思われた。  
 以来、長沢会長、行政氏を中心に、理事、会員有志は施設を慰問、往復の乗用車の奉仕また星電社、流泉書房、みどりや玩具、長沢文具、ミキヤ、ドンク、上田金物店、そごう山田自転車などは格安料金で商品を納入されるなど善意の協力を得て、初年度は八六三、三九五円の奉仕となり、マスコミも広く報道し善行を賛えたので街のイメージアップになった。  
 昭和四十一年八月三日「のじぎく賞」がおくられ、四十二年六月一日「兵庫県善意の人」四十九年六月二十五日神戸市「花時計賞」、四十年九月七日市社協感謝、その他多くの表

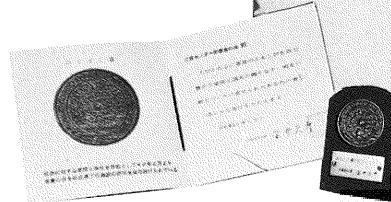
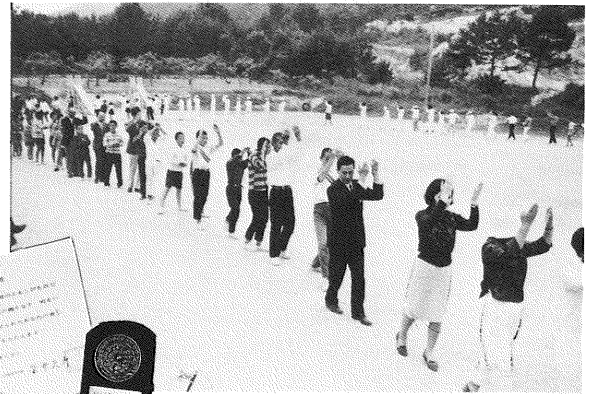
### ▼真生塾へおひな様を (S47.3.7第82回)



彰状、感謝状を受けている。  
 こうして十年間、会則にのっとり絶え間なく奉仕活動が続け、毎年六月一日のチャリティセール売上金や会員或は有志の慶弔金の献金も併せて、総額一千二百七十一万八千六十六円の奉仕額となった(右上表)  
 第十期の会計監査を終えて、月刊センター編集室に置いていた事務局を岸野会長へ返上し今日に至っている。



▶県立赤穂精華園ヘリズム  
楽器を（S 41.5.22第12回）  
◀歳末たすけ合い愛のナベ  
献金（S 43.12.2 第55回）



▲チャリティオークションには上方漫才  
の売れっ子、青芝キック、フックさんも  
大奉仕（野村証券前で）

昭和四十一年八月三日  
「兵庫県のじぎく賞」を受賞  
「社会に対する愛情と奉仕を目的と  
して四十年六月より善意の会を結成  
県下各施設の慰問を毎月続けられて  
いる。  
人びとの心に善意のともしびを点  
じ豊かな愛情と誠実の織りなす明る  
い郷土づくりに寄せられたあなたの  
美しく清らかな善意をたたえます」と  
賞状に記されている。



▲真生塾へ鯉のぼりを（S 43.3.29）



◀縦の木学園へベッドを寄付。ちえおくれの子た  
ちが作った大根のプレゼントはとても嬉しかった  
（S 44.11.19）

✓のじぎく整肢学園には、わざわざ脚踏みのオル  
ガンをミキヤさんが探して届けて下さった。

▼3丁目センター街に加盟した記念チャリティ  
の売上金で奉仕（S 44.4）

